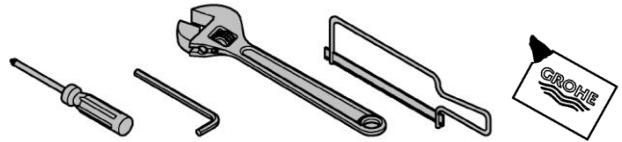


ATRIO 2ハンドル洗面混合栓本体L 据付説明書 (お客様にお渡しください)

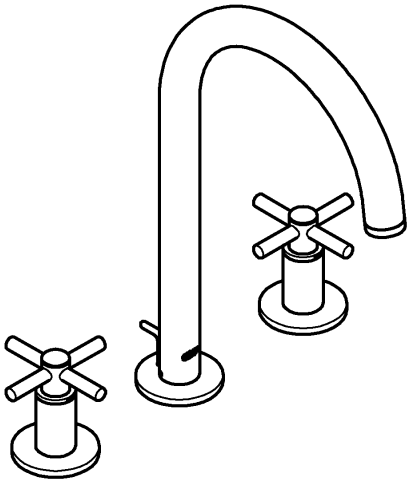
- 製品の機能が十分に発揮されるように、この据付説明書の内容にそって正しく取り付けてください。
- この据付説明書に記載されていない方法で据付され、それが原因で故障が生じた場合は、商品の保証を致しかねますのでご注意ください。
- 据付完了後、試験運転を行い、異常が無いことを確認するとともに、「取扱説明書」にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- 施工完了後は、この説明書を同梱の取扱説明書とあわせてお客様にお渡しください。

※欠品、キズ等が無いかわ据付前に必ず確認してください。万一欠品、キズ等があった場合はご購入先へ早めのご連絡をお願いいたします。

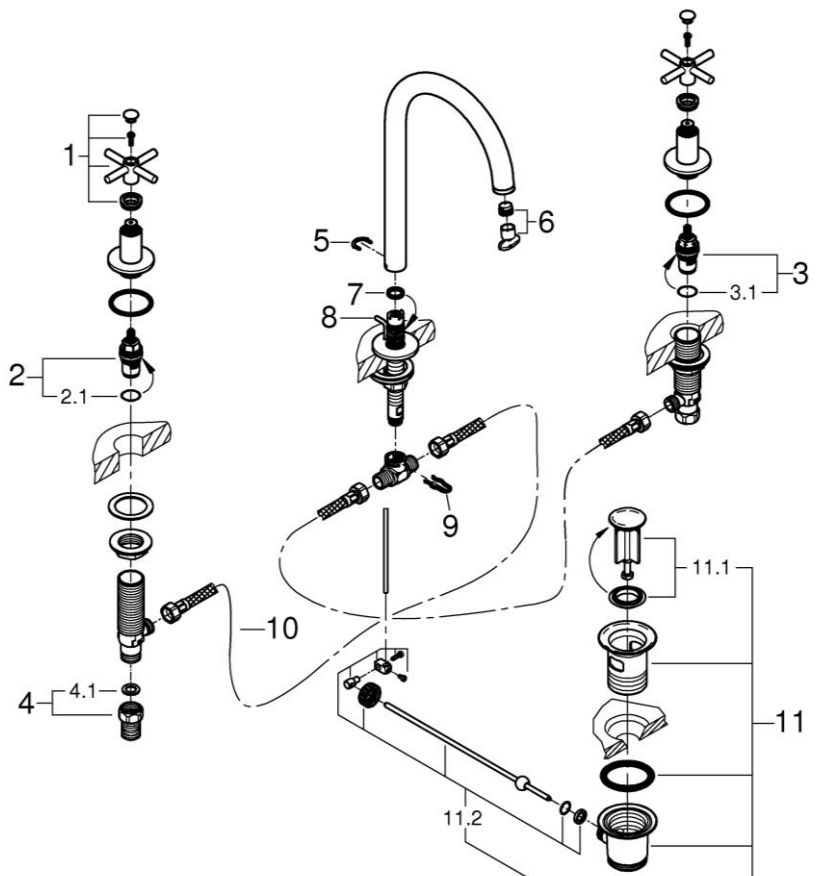
【必要工具】



※ その他、現地で必要とする工具をご用意ください。



図番	名称
1	ハンドル
2	湯側ヘッドパーツ
2.1	Oリング
3	水側ヘッドパーツ
3.1	Oリング
4	接続アダプター
4.1	パッキン
5	吐水口用クリップ
6	エアレーター
7	吐水口用Oリング
8	引棒
9	リングピン
10	接続ホース
11	排水金具
11.1	排水プラグ
11.2	キック棒締付セット



※排水金具の施工方法は、排水金具に同梱の施工説明書をご覧ください。

安全上の注意

据付前にこの「安全上の注意」をよくお読みの上、正しく据付してください。

ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

⚠注意

湯水を逆に配管しないでください。

※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをすることがあります。

お客様に引き渡す前に凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。

寒冷地仕様ではありませんので、水抜きには工具を必要とします。

※凍結破損で漏水し、家財を濡らす財産損害発生のおそれがあります。

据付完了後は、配管接続部分及び水栓から水漏れの無いこと、

ハンドルが閉じていることを確認してください。

※漏水で、家財を濡らす財産損害発生のおそれがあります。

使用条件

●給水、給湯圧力

◇貯湯式温水器(ボイラー、電気温水器)と組み合わせる場合

最低必要圧力0.05MPa[0.5kgf/cm²](流動圧)～最高圧力0.74MPa[7.5kgf/cm²](静水圧)の範囲とします。

給水・給湯圧力は必ず同圧にしてください。

やむなく圧力差が生じる場合は最大3:1以内になるようにしてください。

◇ガス給湯器(比例制御式:16号相当)と組み合わせる場合

最低必要圧力A+0.07MPa[0.7kgf/cm²](流動圧)～最高圧力0.74MPa[7.5kgf/cm²](静水圧)の範囲とします。

給水・給湯圧力は必ず同圧にしてください。

やむなく圧力差が生じる場合は最大3:1以内になるようにしてください。

※Aはガス給湯器の最低作動圧力です。

※以上は下記の条件を想定して設定されております。

開閉ボタン・ハンドルは全開です。

ガス給湯器との組合せ条件が最も悪い冬期条件(給水温度5℃、吐出温度40℃)によるものです。

給水圧力はガス給湯器直前における流動圧です。

ガス給湯器の温度調節は最高温度(60℃)設定です。温度設定は60℃以上で使用しないでください。

◇給水圧力が0.74MPa[7.5kgf/cm²]を超える場合は、市販の減圧弁等で適正圧力に減圧してください。

●水勢の調節及び器具の点検を容易にするために、別途止水栓の設置をおすすめします。

●給湯に蒸気を使用しないでください。

据付前の注意

●給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。

●給水は上水道に接続してください。

※井戸水、温泉水など異物を多く含む水には使用できません。

●開梱、取り付けの際には商品の表面に傷をつけないように十分に注意してください。

●必ず配管中の異物(ゴミ、砂等)を完全に洗い流してください。

●寒冷地仕様は不凍栓等を設置した寒冷地仕様配管設備でないと使用できません。

●配管接続部を隠べいしないでください。水切り棚に取付ける場合、必ず水受けを設けスラブへの防水を行ってください。

●本体を確実に固定する為、給水・給湯配管は動かないように確実に固定してください。

●給水・給湯ホース緩み防止の為、給水・給湯配管は動かないように確実に固定してください。

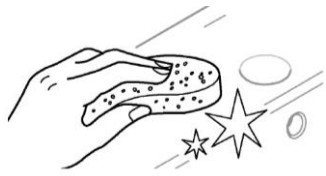
●逆止弁(接続)アダプターの接続ねじは平行ねじG1/2です。テーパねじ(TP1/2、R1/2)には使用しないでください。

また止水には付属のパッキンを必ず使用してください。

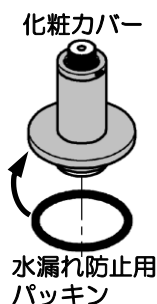
施工手順

バルブの取付け

1. 取付けカウンター表面の汚れを拭き取ります。



2. 化粧カバーの裏面に水漏れ防止用パッキンを取付けます。



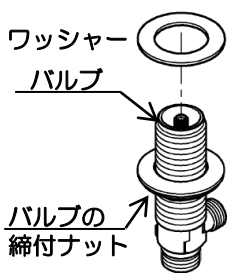
注意

本体の裏側の溝にパッキンを合わせます。

裏面に溝

パッキンが溝からズレると漏水の原因になりますのでご注意ください。

3. バルブの締付ナットを下方方向にゆるめ、上からワッシャーを取付けます



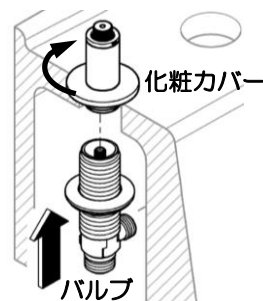
注意

バルブは給水用と給湯用で異なります。

左用（給湯用） 右用（給水用）

赤シール または Lの表示 青シール または Rの表示

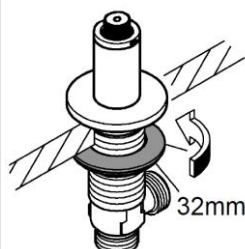
4. カウンター下面からバルブを取付け、化粧カバーをしっかりと最後までねじ込みます。



注意

バルブと化粧カバーが十分固定されるまで、最後までしっかりねじ込みます。
※ねじ込みが足りない場合、動作不良の原因になります。

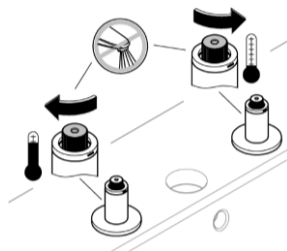
5. バルブの締付ナットを工具等で締め付けます。



注意

バルブがガタつかないように確実に固定されていることを確認して下さい。

6. バルブのスピンドルを手で回し、閉栓の状態にします。

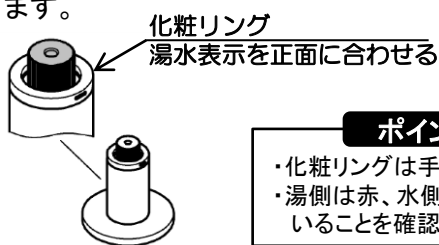


ポイント

湯側→右回して閉栓
水側→左回して閉栓

ハンドルの取付け

1. 化粧リングの湯水表示が正面を向くよう、調整します。



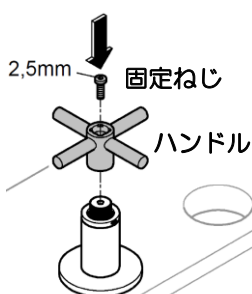
ポイント

- 化粧リングは手でまわせます。
- 湯側は赤、水側は青になっていることを確認します。

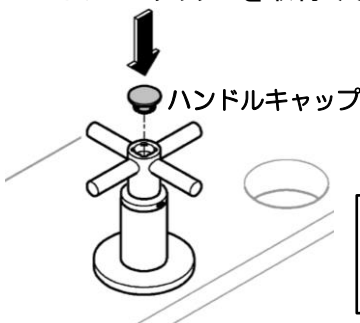
2. バルブのスピンドル部にハンドルを差込み、固定ねじで固定します。

ポイント

固定ねじは2.5mmの六角棒スパナでしっかり締め付けます。



3. ハンドルにキャップを取付けます。



注意

ハンドル・化粧プレートを傷つけないよう、ご注意ください。

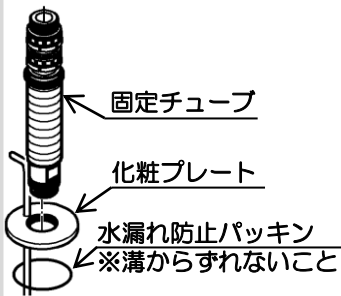
ポイント

- 3種類のハンドルキャップが同梱されています。
- 化粧リングの湯水表示が見えづらいう場合は、H(湯)C(水)印字のキャップをご使用下さい。

施工手順

吐水口の取付け

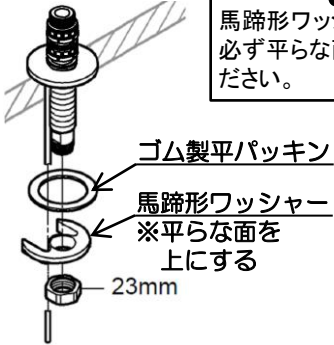
1. 化粧プレートに引き棒と水漏れ防止パッキンを取付け、固定チューブを差し込みます。



注意

裏面に溝
化粧プレート裏側の溝にパッキンを合わせます。
※パッキンが溝からずれると漏水の原因になりますのでご注意ください。

2. カウンター裏側から固定チューブにゴム製平パッキンと馬蹄形ワッシャーを挿入し、締付ナットで締付けます。



注意

馬蹄形ワッシャーには上下があります。必ず平らな面を上に向けて取付けてください。

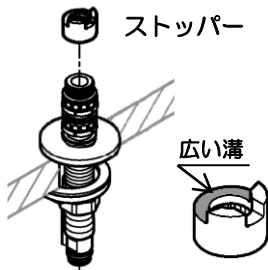
ポイント

固定には対面幅23mmのスパナ等を使用して確実に締めつけてください。

注意

※ゴム製平パッキンと馬蹄形ワッシャーがきちんと重なっていることを必ず確認して下さい。
※取付穴が吐水口の中心にくるように取付けてください。
※吐水口が確実に固定されていることを確認して下さい。動いてしまう場合、再度締付ナットを締め直して下さい。

3. 固定チューブに回転ストッパーを取付けます。



注意

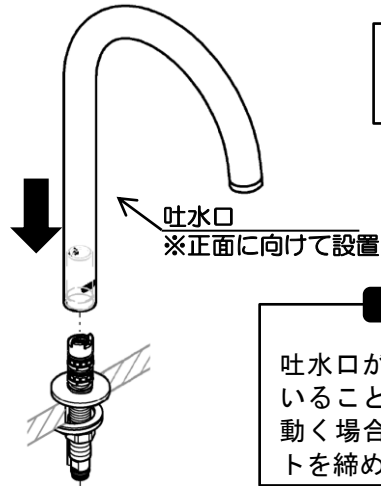
固定チューブのOリング、樹脂部品、溝にグリスを塗布してください。

ポイント

吐水口内部の突起部と回転ストッパーの取付け位置の組合せにより、固定、150°回転、360°回転の3通りから選択できます。

150° 回転	固定	360° 回転
溝が本体の背面	溝が本体の正面	未使用

4. 固定チューブに吐水口を差し込みます。



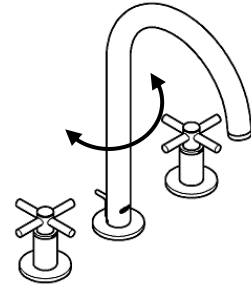
ポイント

吐水口が正面に向くようにセットします。

注意

吐水口が確実に固定されていることを確認して下さい。動く場合は、再度締付ナットを締め直して下さい。

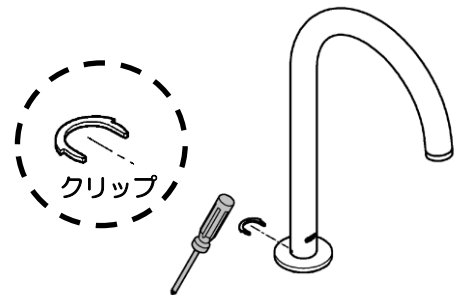
5. 吐水口を回転させ、首振り角度を確認します。



注意

※設定した回転角度と異なる場合はストッパーの設定を確認して下さい。
※吐水口の回転がスムーズでない場合は再度グリスを塗布して下さい。

6. 吐水口に付属しているクリップを本体後部の切り込みに軽く叩きながら完全にはめ込んでください。



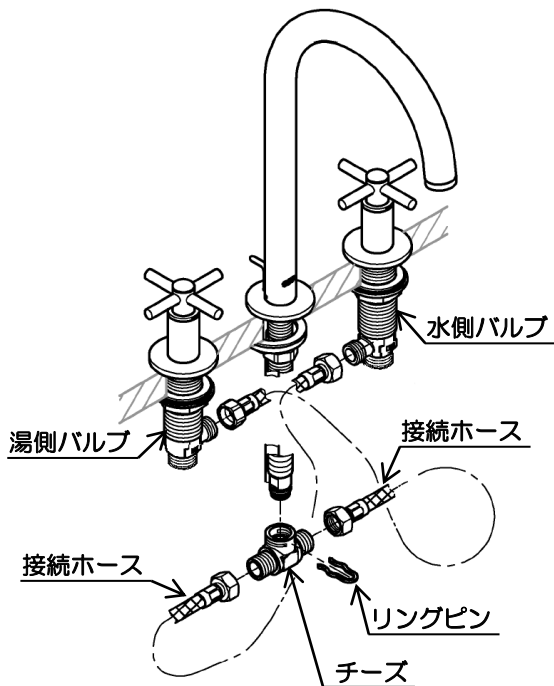
ポイント

クリップの取り外しは、クリップ両サイドの隙間に先端の細い工具を差し入れ、左右交互に手前から後方へ押し出してください。

施工手順

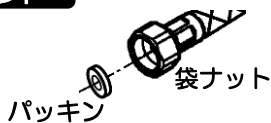
吐水口とバルブの接続

吐水口とバルブは下図を参考に接続してください。



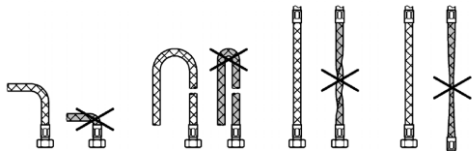
ポイント

接続ホースの袋ナット部(4ヶ所)にゴムパッキンが付属していることを確認して下さい。

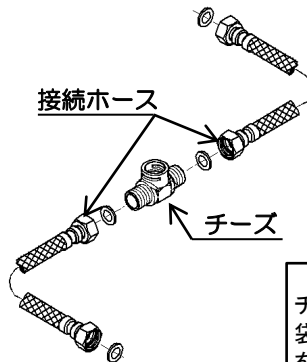


注意

バルブおよびチーズの向きは接続ホースによじれやつぶれが生じない向きに調整してください。
※接続ホースによじれやつぶれがあると、家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。



1. チーズを固定し、接続ホースの袋ナットを取付け、完全に締め付けます。



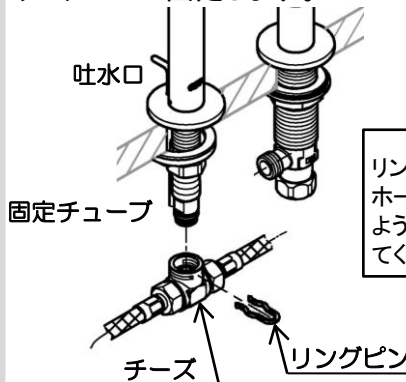
注意

接続ホースの袋ナット部(4ヶ所)にゴムパッキンが付属していることを確認して下さい。

注意

チーズの固定→22mm幅スパナ等
袋ナット固定→19mmスパナ等
を使用し確実に締め付けて下さい。

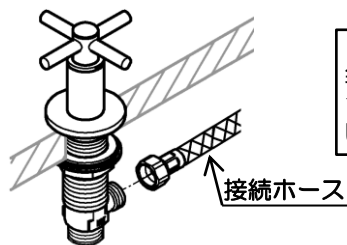
2. 吐水口の固定チューブにチーズを差し込み、リングピンで固定します。



ポイント

リングピンを取付け、接続ホースが無理なく接続できるよう、チーズの角度を調整して下さい。

3. バルブ横の湯水出口に接続ホースを取付けます。



注意

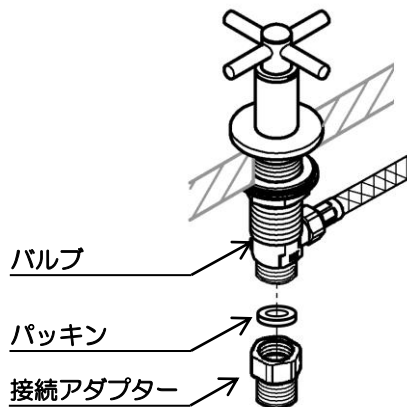
袋ナットの締付には19mmスパナ等を使用し、しっかりと締めつけて下さい。

接続アダプター(逆止弁)の取り付け

1. バルブ下部の給水・給湯口に逆止弁をねじ込みます。
2. バルブを工具等で固定し、逆止弁を工具等で完全に締めつけてください。

注意

締付けは、200~300kgf・cmのトルクで行って下さい。初期の締付けが弱いと漏水の原因になります。

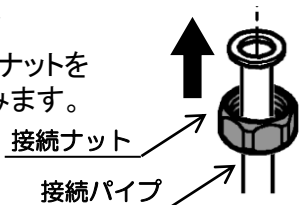


施工手順

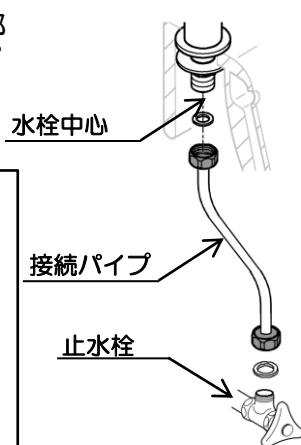
給水管の取付け

別売り品 12803000(接続パイプ)+12901000(接続ナット)+12042N00(接続アダプター)をご使用の場合

1. 接続ナットのねじ部が上側になるよう、接続ナットを接続パイプに差し込みます。



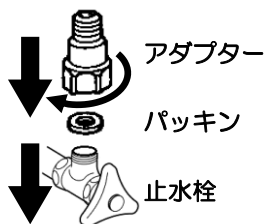
2. 止水栓中心と水栓接続部の中心に合うよう、パイプベンダーを使用して接続パイプを曲げます。



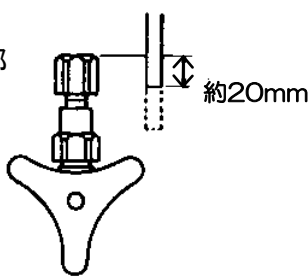
注意

- ※止水栓より50mm以内では、パイプを曲げないでください。
- ※パイプはなるべくゆるやかに曲げ、垂直部分が長くなるようにしてください。
- ※パイプがつぶれないように注意してください。

3. 止水栓に接続アダプターを仮固定します。



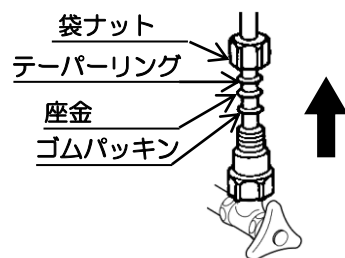
4. 接続パイプの差込み代20mmを確保し、余った部分をパイプカッター等で切断します。



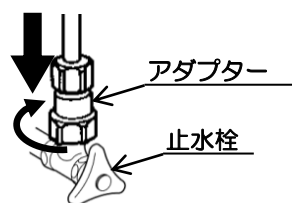
注意

- バリが出来た場合は必ず取り除いてください。

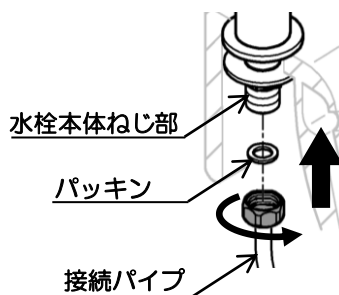
5. 給水パイプに袋ナット、テーパリング、座金、ゴムパッキンの順に入れて、アダプターに差し込みます。



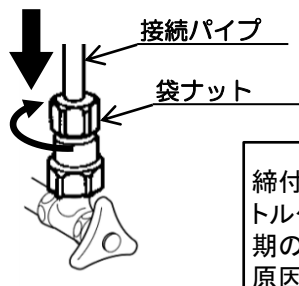
6. アダプターを止水栓にねじ込み、確実に固定します。



7. 接続ナットにパッキンを差し込んで、本体の接続ねじ部にねじ込み、確実に固定してください。



8. 接続パイプをアダプターにしっかり差込み、スパナ等で袋ナットを完全に締め付けます。

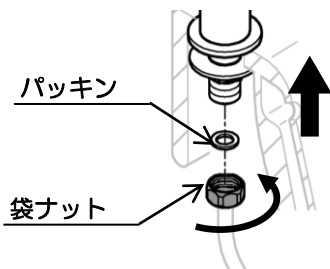


注意

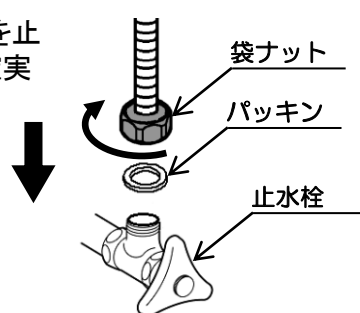
- 締付は、200～300kgf・cmのトルクで行ってください。初期の締付が弱いと漏水の原因になります。

市販品 フレキホースをご使用の場合

1. 市販のフレキホースの袋ナットを逆止弁アダプターにねじ込み、確実に固定してください。



2. もう一方の袋ナットを止水栓にねじ込み、確実に接続してください。



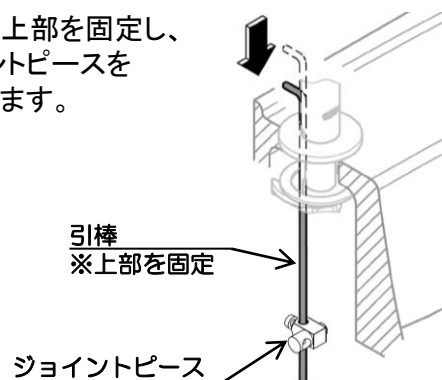
注意

- ※市販のフレキホースをご使用の際は、ご購入メーカーの使用説明書の注意事項にしたがって施工してください。
- ※フレキホースがねじれないように配管してください。加圧した際ホースを取り付けたナットの緩みの原因になります。
- ※接続の端面から極端にフレキチューブを屈曲して、施工しないでください。

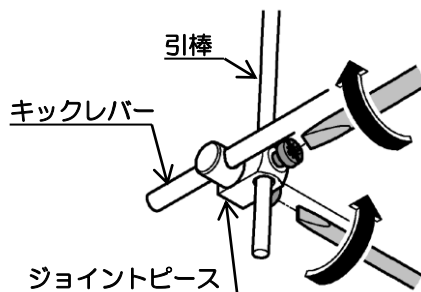
施工手順

引棒の取付け

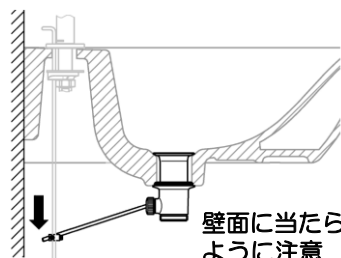
1. 引棒の上部を固定し、ジョイントピースを取付けます。



2. 排水金具のキックレバーにジョイントピースを差し込み、固定ビスで締付けます。



注意

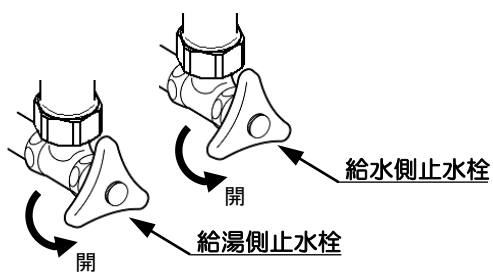


- ・接続ホース、締付セット、壁面に引棒およびキック棒が接触しないことを確認して下さい。
- ※家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
- ・引棒およびキックレバーは曲げずに接続するようにしてください。
- ※引棒を曲げて接続すると、操作が重くなります。
- ・固定ビスはゆるまないよう、確実に固定してください。

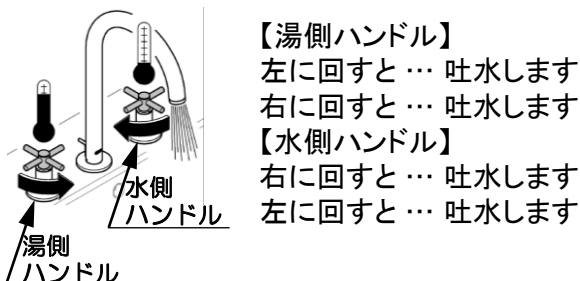
取付後の確認

1. 通水確認

1. 水栓のレバーハンドルを閉じ、給水・給湯の止水栓を開きます。



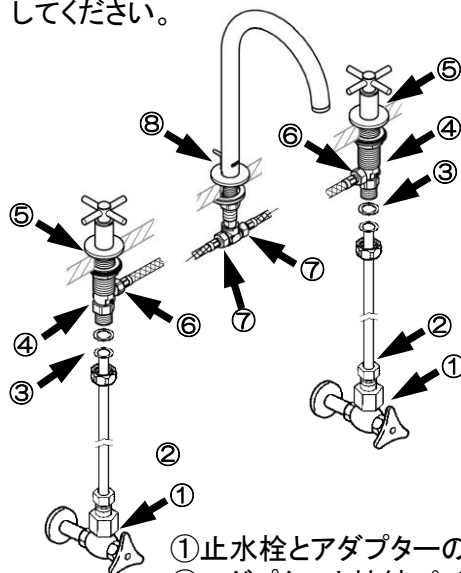
2. 湯側・水側それぞれの位置でレバーハンドルを開け、通水確認します。



注意

※万が一漏水が確認された場合は、パッキンを新品に取り替え、再度規定のトルクで締付を行ってください。
※Oリングの切れ等が漏水の原因となります。

3. 吐水・止水を繰り返し、接続部からの漏水がないか確認します。
①～⑧の箇所は特に通水後漏水が無いことを確認してください。

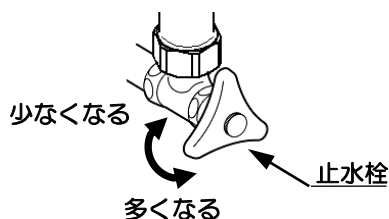


- ① 止水栓とアダプターの接続部
- ② アダプターと接続パイプの接続部
- ③ 接続パイプと逆止弁の接続部
- ④ 逆止弁とバルブ給水・給湯口の接続部
- ⑤ バルブとハンドルの接続部
- ⑥ バルブ出口と接続ホースの接続部
- ⑦ 接続ホースと吐水口パイプの接続部
- ⑧ 吐水口パイプと吐水口の接続部

取付後の確認

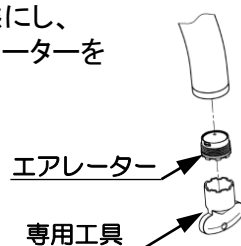
2. 流量の確認

1. お使いいただく現場で、適量・適温が得られるよう、止水栓で調節します。

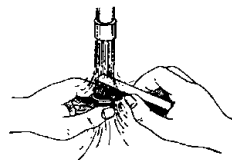


3. 泡沫口の清掃

1. レバーハンドルを止水状態にし、専用工具を使用してエアレーターを取外します。



2. エアレーターのゴミを取り除きます。



注意

清掃後は、専用工具を使用して、確実にエアレーターを取付けてください。

ポイント

新品時にはシールテープ、グリス等が付着していることがあります。よく水洗いしてください。

故障と点検

製品設置後に万一故障した際は、次の要領で分解及び点検を行って下さい。

6. 水漏れ防止パッキン 正しく取付けられているか？

2. エアレーター ゴミ詰まりはないか？

4. 止ビス 正しく取付けられているか？

5. ハンドル 正しく取付けられているか？

3. ヘッドパーツ 破損・ゴミかみはないか？

7. 逆止弁 破損・ゴミかみはないか？

9. 接続ホース 正しく施工されているか？

8. ジョイントピース 締付けは十分か？

1. 止水栓 全開されているか？ 圧力は十分か？

23mm

現象	点検箇所
吐水量が少ない	1. 2. 7
水が止まらない	3
温度不良	1. 3. 7
ハンドルがガタつく	4. 5
カウンター内の漏水	6. 9
洗面器の排水栓が動かない	8